赤神様の夢のかけ橋

山本郡琴丘町天瀬川　小玉　長右エ門　（６０才）

その昔、男鹿島の赤神様が日頃、対岸の美しい景色にあこがれて、何とかして橋を架して自由気ままな遊楽を念願し、ある日、天のサクを呼んで相談した。

天のサクは、一策を献じたので、赤神様は島中の鬼を集めて、今晩、夜明け一番どりの鳴くまで対岸の三倉鼻岬まで、岩橋をかけ果せば、人間のしょうずみくよう（？）を三人与えることを約した。鬼は喜んで日没から、あまたの鬼を招集して岩橋をかけ始め、夜明けまで、ほぼ架け終りました。

その頃合いをみて、天のサクは岩かげにかくれて「ヨケコッコー」と鳴き出したので、驚いた大勢の鬼どもは、人家を襲い一羽残らず、にわとりをかすめ去ったあげく、赤神様の策謀に憤怒し、架けきたった巨岩の橋を男鹿島に投げ散らすなど、周辺一体、天明動地の大騒じょうと化した。

その発端は、にわとりの夜明け鳴きに対する鬼の怨念で、そのために恐れおののいた村人は、にわとりの飼育を固く戒めきたった。